

オイカワ（コイ科）

学名： *Zacco platypus*

別名： ヤマベ、ハヤ、ハエなど

大きさ： 全長 15 cm

特徴： ザコ (*Zacco*) というオイカワ属の学名は、雑魚という日本語に由来する。体色は銀白色で、体側には赤みを帯びた数条の横帯がある。産卵期になるとオスは青緑、赤、黄褐色の混じる鮮やかな婚姻色をあらわし、明瞭な追星が頭部などに生じる（右の写真）。食性は雑食性で付着藻類や小型の水生生物などを食べる。初夏に岸よりの流れが緩い砂礫底で産卵する。

国内の分布： 本来の分布域は、関東や北陸地方以西の本州や、四国瀬戸内海側、九州。琵琶湖産アユ種苗の全国放流に伴って分布域は全国に拡大している。

県内の分布： 霞ヶ浦水系や利根川水系、那珂川水系、久慈川水系、県北地方の各河川。霞ヶ浦北浦本湖にはあまり出現しないが、流入河川では普通にみられる。

県内での生態： 県内のどこの川にもいて、茨城の川でポピュラーな魚のひとつ。生息数も多い。河口付近の下流域から上流域ま



写真： 婚姻色を表したオス。頭部には追星もみられる。

で広く生息し、岸辺に多い。

備考： 釣りの対象としても人気で、冬の寒バエ釣りが有名。久慈川ではヒガイ・ピンカラとも呼ばれ、若魚が冬に食される。漁業者の話では、氷が張るような寒さになると湧水などが出ている温かい場所にオイカワの若魚が群れ、それを投網で捕えるという。寒い時期はエサを食べていないため、苦味が少なく大変おいしいとのこと。

主な文献：

杉浦仁治・根本隆夫（1997）1994年～1996年久慈川及び鬼怒川における投網等による漁獲物。茨城内水試調査研究報告, 33: 89-108.